

## 平成28年度第5回東大和市公民館運営審議会会議録

日 時 平成28年10月20日（木） 午後2時～4時

場 所 中央公民館 301学習室

出席者 （委員）10人

（職員）尾又中央公民館長、平野中央公民館事業係長、北野南街公民館長、佐野狭山公民館長、岩田蔵敷公民館長、蓑田上北台公民館長、内藤主事（記録）

欠 席 1人

### ・【内容】

#### ・審議事項

#### ・①平成29年度公民館の重点目標について

委 員：では、最初に審議事項①「平成29年度公民館の重点目標について」を議題と致します。尾又中央公民館長お願いします。

尾又館長：重点目標につきましては、前回提案させていただきましたが、既にいくつかご質問はいただいておりますが、その中で1点修正させていただきました。2の運営の（3）市民の主体的な学習のためのアですが、前回お配りしたものと、新グループの支援としか読めないということで、訂正させていただきました。アを「自主グループの発足準備など、グループ運営に関する相談・支援を充実します。」と致しました。自主グループ全体に対して、相談・支援をすると読めるように変更しました。以上でございます。

委 員：今日で重点目標については完結させたいのですが、まだお考えがあるかと思えますから、意見・質問をお願いします。

委 員：自主グループの発足準備など書いてありますが、たまたま上北台で講座をやりまして、その後に自主グループを2つ発足させました。そのとき公民館から支援してもらったのですが、コピーの印刷に関する事は公民館がしてくれるとか、場所を予約するとき半年間は公民館で予約してくれるとか事前には知らなかったのです。もう少し具体的にどういう支援を充実するのかということをお伺いします。他の利用している人達は知らないと思うので、もう少しオープンにさせていただけると、サークルが減少していることが解消されると思います。講座から発足した自主グループに限定されていると思いますが。現在既存のグループへも支援していくことも、まだ行き渡って

ないような気がしますし、もう少し具体的になされたらいかがでしょうか。

委員：市民の方にどのように周知されているのかという質問と、もっと周知させたらという意見ですね。

尾又館長：自主グループの発足準備などに含まれている内容につきましては、特別今回、麻雀グループを初心者向けと、経験者向けの2つを1つの講座から作っていただき、ありがとうございました。公民館の講座から新グループを発足させるときに行う支援というのは決まっていますね。講座が終わった後、新グループを発足させませんかと相談したときに、じゃあ、話し合いをしましょうと基本的には自主グループになるにあたって、コピーとかお部屋を取りますよとか、担当職員からお話があると思います。あちらこちらで宣伝はしていなくて、公民館の講座からグループを立ち上げるときに支援はしています。既存のグループにつきましては、用紙援助を年に1度募集しています。ここ数年では、こうみんかんだよりで3月に募集をしているのですが、グループ活動に地域に還元できるような内容がある場合、印刷して、配布していただくことができます。グループの学習活動が自分達のいろんな知識を高めただけではなく、地域の方にお伝えしたいというときに、印刷する用紙を支給しています。

もう1つは、公開学習会があるのですが、こちらもやはり自分達だけではなく、多くの方に聞いていただきたいという中身について、なるべく早くにこうみんかんだよりに載せたいという場合に、公開学習会として他のグループさんよりも早く、4か月前からお部屋をお取りしています。自分達の学習内容を広くチラシ置き場に置くことによって学習内容を宣伝し、関心を持っていただけたら会員募集にもなりますし、公開学習会をして聞きに来てくださった方が会員になるというようなことで、会員募集につながりますので、地域に学習内容を還元することができるという意味を含めて会員募集ができるというところを支援しているというところです。

委員：講座からの自主グループへの支援は良くわかりましたけれども、そうではなくて、市民が講座を開きたいときに公民館に申し出て、適切であると判断されれば、講座は開けるのですね。そのときの講座を開きたいときにどう支援されるのか、どういうメリットがあるのか。教えてくださいませんか。

尾又館長：新グループを、ということでしょうか。

委員：グループというよりも、市民からこういう講座をやりたいと公民館に

申し出ることは可能ですかね。

尾又館長：グループとしてお部屋を取っていただいて、学習会していただくのは結構ですが、定例の活動ではなくて他の人も呼ぶようなことでしたら、公民館として位置付けている公開学習会に当たれば、公開学習会として、定例グループがお部屋の予約を申し込む前に、4か月前から申し込むことができます。

委員：全くないところから講座を自分たちがグループを作って、グループ活動というより講座をやりたいということですか。

委員：普通は公民館で講座を開設していただけますよね。ではなくて、市民がこういう講座をやりたいのですよ、と言って申し込めば可能なのかということですか。

委員：公民館でもいろいろな講座がありますが、それとは別に、市民からこういう講座をやってくださいよというのは聞くのかということですか。

委員：いや、自分たちがこういう講座をやりたいから、それを受け付けてくれるのかということですか。

尾又館長：受け付けるというか、公民館の主催講座としてではなくて、公開学習会としては受け付けて、他のグループより先にお部屋をとることだけです。

委員：受け付けて、お部屋を先にとれるということのところはいいですか。

委員：例を挙げると、歌のサークルが歌うだけではなくて、歌を教えたいので講師を呼んで講座をするというのは受け付けてくれるのですか。

尾又館長：つまり、自分たちだけの定例活動の学習ではなくて、講師のお金はみなさんの会費で賄っていただくと思うのですが、他の方からはお金をもらわずに自由に参加していただく活動の場合には、4か月前からお部屋をお取りする程度です。

委員：そういうところから入るのも、1つの入り口ですよ。

委員：話が違ってしまいますが、公民館の特色として、私がいつも助けていただいているのは、こういう講座をしたいと職員の方に相談すると、講師を紹介してくれることには本当に助かっています。

委員：では、他にどうぞ。

委員：前にも同じようなことを聞いているかもしれませんが、重点目標と運営と2つに分かれていて、この2つがどういうふうにリンクしていくのか確認で教えていただけますか。

尾又館長：重点目標につきましては、大まかにこのようなことをやっていきたいということをおっしゃって、もう少し具体的にどのようなことを

するのかということも2の運営に挙げています。

委員：具体的に、重点の(1)はどこにつながるのですか。というのは、運営の(1)、(2)、(3)というのは具体的に公民館の利用の側面で書いている項目だと思うのですね。(4)は地域課題というところにテーマを絞っているわけですね。(5)は市民大学グリーンカレッジのことを触れていると思うのですが、重点と運営がうまく繋がらないのです。なぜかという、運営の(1)、(2)はごく当たり前のことを言っていて、29年度の重点にあえて入れることではなく、ずっと公民館として当たり前のやらなければいけない項目だと思います。毎年度挙げる必要はないと思います。(4)も市の公民館の役割からすれば地域課題というのも当然上がってくることです。なので、あえて29年度の重点目標に入れられると違和感を生じてしまいます。

委員：25年度から重点目標の資料を持っているのですが、25年度が片面全部、重点目標がざっと書いてありまして、文で書いたのもわかりづらいだろうとことで、27年度は市民の皆様にもわかりやすいように、ぐっと簡潔にしてみようということで大事なところだけを取り出して、27年度は(1)、(2)、(3)の3つになったので。そして、後半に運営として(1)から(6)まで縮めていって、それがどこに繋がっていくかという、このあと予算が決まり、各館がそれに対しどこを中心に事業を取り組んでいくかをわかりやすいようにしたのが27年度なのです。今年重点目標に対して、(1)、(2)、(3)、運営に対して(1)～(5)になっているのです。さらに今年の場合は、どのように活動しているかの姿の写真を載せましょう、1～5に当てはまるように事業を進めていきましょう、というような経路で進んできたのです。あえて29年度とは言っていない。引き続き市民のことを考え、審議してきて、今のところ最先端というのが29年度のものであり、重点目標に対する具体的な項目を受けて、予算が通れば、各公民館で評価や反省を受けて事業を組み、どこに当てはまるかを明記した上で、市民の方に配って、公民館はこういう風にやっていきますよ、どうぞ参加してくださいというように進めていくのです。

委員：これについては前回に大体承認され、今回は最終決定となるわけですが、28年度も29年度も内容的には大差ないと思っています。28年度も29年度も引き続きやっていただいています。例えば(1)の施設の備品の計画的整備に努めますと書いてありますが、期末には予算がいくら付いて、いつどこで何を整備したかについて公表し

ていただけるとありがたいと思います。他の事にも言える訳ですが、どのようなことをしているのか、具体的にしていいただければ非常にわかりやすいと思います。

委員：決算については決算が済んだときに公になりますので、公運審でも2回目のときに前年度の決算報告を元に各館の事業報告をしていただきました。

尾又館長：重点目標についてですが、公民館の職員が重点的に取り組んでいる(3)は、運営の(5)の市民大学を平成25年度から取り組んでいますが、27年度にも短くはなりましたが文章で書いてあります。また、(4)にもありますように市民企画による講座を実施しますということで、役所の中でも公民館の位置づけとして重視していることなので、色んな講座で活かさせていただいております。(2)につきましても、市民大学以外のその他の講座でも、企画委員をやりながら、講座を受講されながら、イベントを実施しながらも、お互いの関係を作ったり、連携したりということで、大事な取り組みとして、公民館まつりや地域デビューパーティーなどやっています。ずっと大事な目標としております。(1)については27年度から発見・発信し隊は3年間の事業ですが、東大和の魅力を発見したり、新しい魅力を作ったりと、(1)につながるようなこともしています。その他でも、うどんでも名産品をつくりたいということもしながら、(1)～(3)が色んな講座で反映するように努力しています。2の実施の(1)のアにつきましましては、施設や備品は計画的に進めたいのですが、毎年実施計画に出しながら、なかなか通らないところでもあります。イ、ウ、エにつきましましては、ここ数年、公運審でも議論されていますので、重点として外せないものです。(2)も、ある程度対象を絞って、高齢者や障がい者が利用しやすい施設としてはまだ不備なところもございます。子育て世代についても、もっと支援して欲しいというところもあります。子ども対象事業及び親子対象事業も非常に重要な課題です。地域デビューにつきましても、十分に公民館を利用していだけていないと思いますので、29年度もしっかり考えなければならぬ課題だと考えています。ここに挙げさせていただいているのは、公運審でも議論されているところですし、今後も取り組んでいきたいことになっています。

委員：ご説明いただいて、おっしゃりたいことはわかりましたが、やはり言いたいことは、文章をあげたときに同じようなことがまた上がったな、という印象を持ったということです。意見として申し上げたいこ

とは、同じことでもいいのですが、前年度のまでは目標値としてこういうことを設定したが、まだ達成できていないので29年度も追及しなければいけないというようなことが見えてくると、同じ項目でもわかりやすいと思います。この件は以上で終わらせていただきます。

委員：27年度をつくる時に、そういう意見がありまして、長い文をやめて短くし、上に2つ項目をつけたのです。1つが、公民館の重点目標の策定にあたりという項目で、重点目標ができた経緯について触れており、もう1つは取り組むべき課題とタイトルをして、今の大きな課題をあげて、だから今の重点目標にしましたということが書いてあります。28年度は工夫をしている途中で、市民向けには策定にあたりということよりも、写真があったほうがわかりやすく、取っ付き易いのではないかと、ということでこうなったと思います。皆さんには、その経緯が知らされてあったほうが良いと思います。

委員：公民館のパンフレット本当に作りたいなと思っています。初めて見る人も公民館がこういうことやってくれるとか、協力してくれることがしっかりとわかるようなパンフレットを皆さんと力を合わせてやっていきたいです。初めて見る人にもいいものでありたいな、ということと、項目について公民館がどういうことをやってきたかということと一緒にチェックしていくことは大切だと思いました。なので、そのことについて自分達も意見を言わなければならないなと思いました。

委員：公運審のハンドブックを話した効果がありました。

委員：まず、結論としてはこれでいいのではないかと思います。運営と今後の事業計画がどのように関わっていたのかが前回の資料ではわかりました。冒頭の委員からの質問を私なりに解釈しますと、上に重点目標があり、下に運営がありますと。同じように運営の(1)～(5)のア～エというのは、右側に重点目標のこれとこれに関わっていますというのがあった上で出来上がっているのですか、ということですか。館長の説明もわかった上で、質問させていただきますが、こういうものがあるとすんなり理解できると思います。

尾又館長：先ほどの決算について訂正させていただきますが、決算の報告は前回で、予算が6月でした。決算報告からその反省に基づいて、29年度の重点目標を審議するので、普通なら遅いと思いますが、反省点が出た上ですぐに審議できるのはタイムリーであるので良いのかなと受け取っていただけたらと思います。

委員：それでは29年度の重点についてはこれで終わらせていただきます。  
これで、重点目標が決まりましたので、このあと予算化され、各館の事業の組み立てになっていくので、皆さんも見守るだけではなく意見を言うていただければと思います。

#### ・②50周年記念事業について

尾又館長：前は50周年事業のスケジュールについてお配りしましたが、今回は多摩地域の周年行事をまとめたものになります。まだ調べ途中で、わかったところだけ記載させていただきました。表のグレーの自治体は既に公民館がないところ。公民館であるところは記念誌もあり、情報交換できるのですが、公民館でなくなってしまったところは、関係が絶たれてしまって、ネットでしか情報が得られないので、わかる範囲を載せました。また、田無と保谷は、現在西東京市になっていまして、それ別々に周年行事をやっているのかなという感じが。周年行事内容として、右側にわかったものを記載しております。概ね記念誌を作ったり、講演会をやったり、祭りのようなことをしています。国立は60周年を記念して、60人の声を記録していたり、先ほど委員がおっしゃっていたリーフレットや、Facebookを記念事業にあわせてつくったりしています。まだ、この表も埋まっていないのですが、まずは皆さんの中でイメージを作っていただければと思います。

委員：イメージをお持ちの方、是非意見をどうぞお願いします。

委員：記念誌はほしいなと思うのですが、若い人に手に取ってもらうのは難しいので、若い人には記念誌だけではなくて、映像で訴えるのがいいと思います。国立のPRビデオも今から準備して、若い人の間で広げていただければと思います。

委員：記念誌などの印刷物、それといつでも見られるPR動画もありますね。  
委員：5年後には利用率が減少すると言われてはいますが、増えていくように、周年行事が終わった後も稼働率が上がっていくように、PRビデオを作ることは大切だと思います。私の友達にもこのようなPRビデオを作っている方がいまして、その方もちょうど仕事が欲しいと言っていましたので、一緒に作れたらいいなと期待しています。あと、子供たちが夜間、声を気にせずゲームやお喋りをする居場所がないので、そのお部屋の確保もできたらいいですね。周年行事が終わった後も、何かずっと続けていけるようなことができたらいいなと思います。

- 委員：他にいかがですか。今はお金のことは抜きにして、何でも大丈夫です。
- 委員：先ほどおっしゃったように、PR動画はいいと思います。市のことは、市報によってだいたいわかりますし、公民館についてはこうみんなだよりでわかるのですが、まだ公民館について知らない方がいるので、わかりやすいパンフレットを公民館や集会所に置いて、市民に公民館のことを知っていただけますよね。
- 委員：気軽にとって見られるものがあるとわかりやすいですよ。
- 委員：パンフレットもPR動画も5年後でいいのかということです。50周年事業のゴールに向けてやっていくには工夫をしないともったいないと思います。もっと早く効き目が出てくるようなアプローチができないのかと思います。
- 委員：50周年のときに全部そろって稼働し始めるのは遅いので、今から少しずつ何か形にできないかということですね。
- 委員：具体的ではないのですが、イベントですね。5年後のイベントに向かって来年からプロセスを踏んでいく、そのプロセスが大切だと思います。祭りのような多くの市民が関心を持つイベント、講演会や音楽、ダンスも盛り込まれた老若男女が関心をもてるものができたらいいですね。来年からコスト掛けないで、内容のあるものができたらいいですよ。オリンピック・パラリンピックに負けない東大和から打ち出せたらいいと思います。来年から多くの市民を引き寄せて、プロセスに関わってもらい、盛り上げていけたらいいなと思います。
- 委員：当日のイベントも市民を引き付けるものになりますよね。あまりお金を掛けずにといいながら、掛けないとそれなりのものになってしまう場合もありますが。
- 委員：お金というのは人件費だと思います。人件費をかけないでということは、市民が時間と汗を流してやっていくのが良いのです。そうすればコスト掛けないでできますよね。
- 委員：つまり、根底には市民を引き付けるアイデアが必要になりますね。
- 委員：西多摩のこども劇場でババコンというのは聞いたことがありますか。若者がデザインからおしゃれからヘアメイクまで地域の大人の方、お年寄りの方をモデルにしてコンテストをやるのも面白いかと思います。もう一つ夢なのですが、いつか市民全員が参加するミュージカルができたらいいなと思います。そこで、実行委員というのはいつ頃からやるのですか。
- 委員：取り組む内容によりますが、大きいものをするなら早めに。
- 尾又館長：少なくとも1年前には発足していると思います。



- 委員：今のご意見の中で言いますと、魅力発見・発信し隊が2年目が間もなく終わりました、3年目を迎えようとしています。これを土台にしてホップ、ステップ、ジャンプといよ様に公民館が市民の中に飛び出すイメージなのです。公民館の講座で、まち連が既にできていますが、実行委員を形成するときに、今の3年間の受講生を巻き込みつつ、既にあるグループの方や、東大和どっとネットもあるのですから、そういう方々と組み合わさってできたらいいかなと思います。そこを中心の核として多くの市民を巻き込んで来年からできたらいいかなと思います。
- 委員：過去の記録からすると複数年でイベントをしていますけれども、市政施行もあるのでおそらく大規模になると思います。50周年というのは半世紀ですから、ある程度のお金は確保して、今までと違ったものができたということを経験してもらえばよくて、事務局も複数年の計画を立てて事務レベルで検討していただければと思います。
- 委員：東大和市としても大きい区切りになると考えると、ある程度大きいものを考えておく必要があるかもしれませんね。今日はイメージということで、ここまでにします。

・審議事項

・③委員研修会について

- 委員：皆様の方からこういう人どうだろうという案をいただきまして、先方の都合もありますし、候補を2、3人挙げて、日にちを考慮するかもしれませんが、事務局の方で連絡したいとのことでしたが、委員の方で今日もってきていただいた方はいますか。
- 委員：先輩の公運審にお尋ねして名前が挙がった方を紹介しますが、今日最初でありましたハンドブックも福生の公民館を参考にしていただいてもありましたが、伊東静一さんが数多く出ているのですが、先輩の方も薦めていましたので。あと、千葉大学の長澤成次さんのお名前も挙がりました。あと、昭島で公民館の職員をされていた山崎功さんのお名前も挙がりました。
- 尾又館長：伊東静一さんは、現在狛江の公運審をなされています。長澤さんも社会教育関係では高名な方です。
- 委員：まずテーマを決めてから先生を選ぶのではないのですか。
- 委員：前回に宿題にして、あえてテーマを言ってないのです。いろんなことを考えて、私はこんなことを聞きたいから、こんな先生を呼びたいというのを聞いてもらっているのです。あまりテーマを聞いてし

まいりますと、講師の方を挙げづらくなってしまいますので。

委員：すみません、私が先輩の公運審さんに聞いたのは、研修会で公運審の方だけではなく利用している人も公民館とはどういうところなのかを研修する機会が少ないかなと思ひまして、先日の都公連の研修会がありました、市民の方はほとんど参加されていないということで、年に1回はそういう機会が必要だと思ひて、どなたがいか相談したのです。

委員：市民の方にも聞いてもらうのなら、広く話をできる人で、公民館という大きいテーマとして話していただくことになりますね。

委員：今、公民館を考えていると、利用していない人が市民の7割もいるのですね。また、少子高齢化や団塊の世代の高齢化が課題であると考えています。どういうふうに公民館のことを考えていくのか1つのテーマとして考えています。

委員：公民館利用者が高齢化しているという社会の状況に、私達がどうアプローチしていくか。そういうような話を聞ける人を選びたいということですね。他には、いらっしゃいますか。

委員：この前の研修会に参加していただきましたが、公民館活動をあまりされてなかった方からすると、あのような話を聞いてどのようなことに興味をもちましたか。

委員：個人的ではありますが、PTAの立場として、過去の記録の平成20年度の子どもと若者を地域で育てるそのための公民館の役割について、が気になります。公民館を初めて利用する方を増やすためには、やはり子どもや若者に興味をもってもらふ必要があると思ふので、子どもや若者が関わられるお話を聞けるといいです。

委員：子育て世代に、なにか支援できないかというところも確かに大切ですね。

委員：とても良いご意見だと思ひます。名前を忘れてしまったのですが、遊空間を発足するときに、色んなところで若者の居場所作りをしているところに見学にいったのですが、その中で、川崎が先進的にやっていて、そういう方をお呼びするはどうでしょうか。伊東静一さんもここに出ているので、いいかなと思ひますが。

委員：伊東静一さんは、提案した内容を含めて話していただける幅広い方いらっしゃいますね。他の方はどうですか。そうすると、今までの研修会は私達、公運審の委員だけでやっていましたが、今回は市民の方にも来てくださいというようなスタイルに変更するのでよろしいでしょうか。それから、私達だけではなく、一般市民の方もいる

中で質問するので、オープンな質問になることを意識しなければなりませんね。

委員：各公民館の利用連の方、現役で公民館で活動している人に対しても話が持っていけるといいですね。

委員：利用連の方ならそれぞれ課題を持って来ていただけますね。サークルに関わっている人ですからね。そうすると、やはり大きいテーマになりますね。公民館に来ていただくところないことがありますよということや、利用連から来ていただくとする、公民館を上手く使うアイデアを他所の公民館からもっていただいたりできますね。そこの区切りはどうしますか。対象を委員だけか、利用連のような公民館を利用している関係者にするか。どちらかというところを広げることによってよろしいでしょうか。そうすると、大きいテーマで話していただける人になりますが、委員から挙げられた3名の方になると思うのですが。伊東静一さんはその点で幅広くお話ししていただけると思うのですが。

委員：先ほどもう1人おっしゃったのは、フリースペースえんの西野さんだと思います。不登校の問題で、蔵敷公民館で取り上げられた方なので、その方も幅広くお話できるかと思います。子どものプレーパーク所長さんですね。

委員：そうすると居場所の話になってしまい、公民館という大きなものから、公民館を居場所の1つにどうですか、というような話になってしまうかと思いますが。

委員：テーマを広げるかについてなんですが、先ほどおっしゃったこともとても捨てがたくて、広げた方が多くの方が来ていただけるのか、それとも絞った方が聞きたいと思って来てくれるのか、ちょっと難しいなと思います。

委員：絞ってしまうと興味ないものには来てもらえないと思います。テーマを広げると、自分が考えていることがどこかのキーワードに当てはまれば興味をもっていただけるので、色々な方が来ていただけるかと思います。

委員：私達も社会の情勢をチェックしなければならないと冒頭で説明がありましたが、いじめの問題が深刻になっているのですね。フリースペースえんの西野さんは不登校の生徒や、いじめの問題なども関わっていますし、若い先生なのでいいかなと思います。あと、今7割しか使っていないということですよ。びっくりしました。そう思うとたまり場的な話もいいのかなと思いました。

- 委員：時間も少なくなってきましたので、実際に名前が挙がっている3人の方にテーマとしてこういうことも話して欲しいと依頼をかけて誰かにするか、というところですね。
- 委員：いじめ問題や、居場所作りもありますが、この間の話からすると私たちの間で議論していることとして公民館ファンをどう増やすのか、新しい人や若い人、また公民館を既に利用しているサークルがどう会員を増やすか、とうことで進めているので、そういうところで広げたらいいかと思います。
- 委員：なのでテーマを広げるという意味で、最初の3人のほうが話してもらいやすいのではないかと思います。順位を付けたほうがよろしいでしょうか。
- 尾又館長：そうですね、あと日程の都合もございまして、候補日が1月21日、1月26日、2月2日です。長澤先生は大学の教授なので2月のテスト期間は難しいと思います。伊東先生は日程さえ合えば来ていただけるので1番に入れると必ず決まってしまう。
- 委員：では、1番に長澤先生にして、2番を山崎さん、3番に伊東さんにするのはどうでしょう。
- 尾又館長：長澤先生のように、大学の教授としてお話できる方に、この間の佐藤一子先生のように幅広く何でも話せて、説得力のある方だと長澤先生レベルですね。長澤先生がダメなら上田先生にするか、というように大学の教授にするのか。それとも伊東先生も現場で活躍されている人で、公民館をずっとやっていて、福生の公民館長になり、現在狛江の公運審をしているような現場レベルのお話をしていただくのかということになります。もう少し教えていただければ。
- 委員：大学の先生だと、広いことは広いのですか。現場から離れる話も多いのでしょうか。
- 尾又館長：大学の先生なので、ややアカデミックよりになると思います。
- 委員：ご自分の研究成果を発表したいというのがやっぱり出てきますので、やや専門的になりがちになるかと思います。私達よりだと、公民館関係で活躍されてきた人の方がいいかなと思うのですが。となると山崎さんがいいですが、現在何をされているかわからないのですね。佐藤先生は幅広くお話していただきましたが、中にはやや狭く専門的になってしまう方もいらっしゃるかと思ひまして。私たちの意向としては、どちらかといえば公民館よりの方ですかね。テーマ的には山崎さんか、伊東さんですね。もし事務局のほうでも公民館関係の候補があれば。テーマ的には公民館に関わることで、利用連の方

にも来ていただくには、公民館で関わっていた方になりますね。

委員：先生の話のところで公民館に関わっている方ということですが、公民館の外部の方でないといけないのですか。公民館まつりでよく挨拶していただいている佐々木会長はいかがでしょう。お話をしていますが、とても面白いので。そういう方向はいかがでしょう。

委員：以前に武田さんがやったこともありましたね。

委員：委員なら、公民館だけではなくて社会教育部門にも関わっていますから。

委員：それはいよいよのときに。私の名前が出てうろたえてしまいましたが、先ほど挙げた2人以外にあれば事務局のほうまでお願いします。

委員：我々に関しては質問もしやすくありがたいのですが。

委員：では候補の1人として入れておきますが、本人の都合もございますので。では、他に候補の人がいたら1週間待っていただけるので、事務局の方までお願いします。基本は私達と利用連の方が対象です。